

九州

日本の食糧庫 最後の希望

復興のためにがれき受け入れを拒否しよう

今、こんなにも多くの処理施設が汚染がれきの受け入れを表明していることをご存じでしょうか？これが実現されれば、九州全土が深刻な放射能汚染を免れなくなってしまうことは必至です。東日本へクリーンな食べ物を提供するためにも、私たちは汚染がれきの受け入れを拒否しなければなりません。

放射性廃棄物の定義	
事故前	事故後
0.01mSv/年	4.38mSv/年

▲事故前の定義は、IAEA等の国際機関の指針に守られていましたが、政府が基準を引き上げようとしています。従来のなんと**438倍**です。これ以下だと一般廃棄物となり、燃やされ埋め立てられかねません。さらに政府は、埋め立て可能とする焼却灰の放射性セシウムの基準を、現在の1キロあたり8000ベクレル以下から**10万ベクレル**以下へ引き上げようとしています。8000ベクレルでさえ異常に高い数値であるのに、その10倍以上でもよいというのです。また、煙に含まれる有害物質の拡散を防ぐフィルターがなくとも、焼却に問題ないとしています。このような横暴を、私たちは許してよいのでしょうか？

- *黒点付きマーク=AERA掲載/又は検討中と報道*
- *押しピンマーク=電話確認結果あり*
- 《赤》自治体のゴミ焼却施設
- 《黄》埋立て処分場
- 《水色》中間処理やリサイクル処理施設
- 《紫》焼却灰受け入れ済み
- 《緑》がれき置き場



画像は8月8日発売「AERA」p12~13に掲載されていた情報を元にあきこげ氏 (twitterアカウント@mu sihokori) が作成したもの (8月12日現在)
<http://maps.google.co.jp/maps/ms?msa=0&msid=210462754553401757090.0004a7dc3d09f0957c18e>

局地的な問題ではない

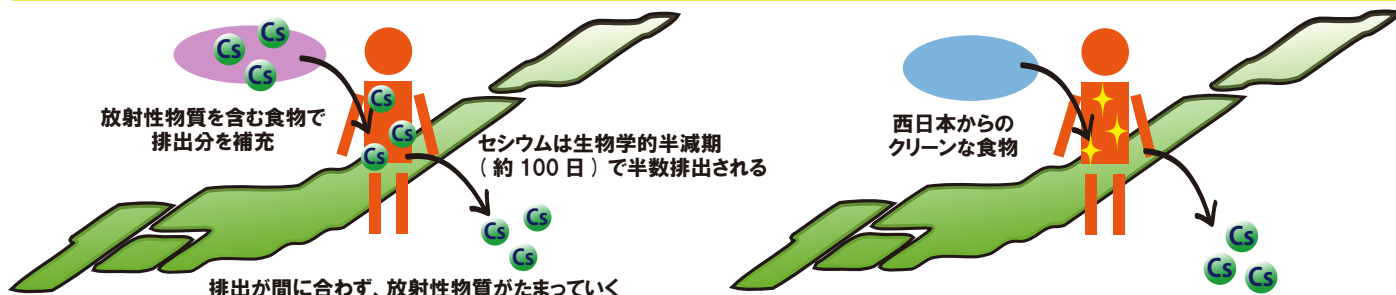
がれきを受け入れると、処理施設周辺の住人の深刻な被曝が懸念されます。それだけでなく、風向きによって施設のない地域も汚染されてしまうのです。関東には福島第一原発から200km以上離れているにもかかわらず、ホットスポットと呼ばれる線量の高い場所が存在します。ただ距離が離れているからというだけで安心することはできません。九州は沖縄を除けば日本列島の一番西にあります。ここが汚染されれば、偏西風により中国・四国、関西まで放射性物質が拡散され、西日本が一度に汚染されてしまうことになりかねません。

！ がれきだけではありません！

皆さんもご存じのとおり、すでに高濃度の放射性物質を含んだ腐葉土が肥料として日本中に運ばれてしまっています。着々と全国の人為的な汚染は進んでいるのです。放射性物質は煮ても焼いてもなくなりません。半減期を迎えて自ら崩壊するまでずっとその土地の自然のサイクルに取り憑いて私たちの健康を害し続けます。これ以上の汚染は何としても阻止しなければなりません。

九州をクリーンに保つことが本当の復興支援です

復興支援とは皆で被曝して不健康になることでしょうか？少しでも汚染されていない地域を守り、皆で健康になることではないでしょうか。被曝量を少しでも減らすために、東日本からたくさんの方が九州へ移住してきたり、休みなどを利用して旅行したり、食べ物を取り寄せたりしています。九州は東日本にとって「最後の希望」なのです。私たちのふるさとを守ることで、復興のお手伝いをしようではありませんか。



例えばセシウムは、身体の排出機能により半減するまでに約100日かかります。しかし日常的に汚染されたものを口にすると、どんどん体内にたまっていってしまいます。クリーンな食物を摂取することにより、生物学的半減期は初めて意味をなすのです。